

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス つむぎ	公表日	2026 年 3 月 2 日
------	-----------------------	-----	----------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・利用児の特性や年齢、活動内容に応じて、支援スペースや活動内容を工夫しながら支援をおこなっている。	・今後は、より効果的な支援がおこなえるよう、活動内容とスペースの使い分けを検討していく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・利用定員や利用児の状態に応じて、法令に基づいた配置をおこなっている。 ・活動内容や時間帯に応じた人員配置の工夫をおこなっている。	・支援内容に応じた配置となるよう、今後も必要に応じて検討をおこなっていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・利用児が見通しを持って過ごせるよう、視覚的な配慮や同線への工夫をおこなっている。	・利用児の特性に応じた環境整備について、今後も継続的に見直しをおこなっていく。 ・掲示物等の字体を読みやすいものにする等の工夫をおこなっていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・受け入れ時間終了後に清掃や整理整頓をおこない、清潔で快適な空間を維持している。 ・個々の活動内容に合わせて室内のセッティングをしている。	・身体を動かす活動の充実も含め、今後も空間の使い方を検討していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・個別のスペースで集中して支援に取り組めるよう配慮している。 ・利用児の状態や要求に応じた柔軟な環境づくりをおこなっている。	・今後も、活動内容や状況に応じた個別空間の活用について、今後も検討していく。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・事業所の業務改善に向けたPDCAサイクルについては、目標設定や振り返りに職員が広く参画できるよう、工夫をおこなっている。	・振り返りが十分にできていない場合もあるため、今後は振り返りの方法や職員間での共有をより充実させられるよう、今後も改善を進めていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・保護者向け評価表を活用し、保護者の移行や意見を把握する機会を設けている。 ・把握した内容を業務改善に活かせるよう、職員間で共有しながら対応している。	・今後も、保護者の意向や意見を職員間で丁寧な共有し、日々の支援や環境づくりに反映できるよう努めていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	・職員の意見や考えを把握できる機会を設け、日々の業務に反映できるよう配慮している。	・把握はできているが、業務改善に十分に生かしていない部分もあるため、意見を取り入れながら、より良い業務運営に繋げられるよう工夫していく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		・外部評価を定期的に実施し、結果を職員間で共有している。	・今後も評価結果を職員間で共有し、業務改善に取り入れながら、より良い支援や運営に繋げられるよう工夫していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・職員の学びや成長のため、研修の受講機会や職場内研修開催の機会を確保している。 ・職員が積極的に研修に参加できる環境づくりをおこなっている。	・今後も研修機会や学びの共有方法を工夫し、職員のスキルや成長に繋げられるよう努めていく。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・支援プログラムは適切に作成され、保護者や関係者に公表されている。 ・内容についても理解しやすいよう配慮している。	・より分かりやすく、活用しやすい支援プログラムとなるよう、内容や公表方法について工夫していく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・利用児に対して適切にアセスメントしている。 ・利用児や保護者のニーズや課題を把握し、個別支援計画の作成に反映している。	・今後も、アセスメント結果やニーズを個別支援計画にしっかりと活かせるようにしていく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	・児童発達支援管理責任者だけでなく、利用児の支援に関わる職員が共通理解のもとで協力し、利用児の最善の利益を考慮して計画作成をおこなっている。	・今後も、職員の意見や気づきを取り入れながら、より効果的な支援計画にしている。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・計画は職員間で共有されており、計画に沿った支援をおこなっている。	・今後も、計画内容の理解や共有をより深め、支援に活かしていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・利用児の様子を標準化された評価ツールと日々の観察の両方で確認し、個々に合った支援を考える材料として考える材料として活用している。	・今後もアセスメントで得た情報を日々の支援や計画にしっかりと活かせるようにしていく。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・支援プログラムは適切に作成され、保護者や関係者に公表されている。 ・内容についても理解しやすいよう配慮している。	・より分かりやすく、活用しやすい支援プログラムとなるよう、内容や公表方法について工夫していく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・利用児に対して適切にアセスメントしている。 ・利用児や保護者のニーズや課題を把握し、個別支援計画の作成に反映している。	・今後も、アセスメント結果やニーズを個別支援計画にしっかりと活かせるようにしていく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・児童発達管理責任者だけでなく、利用児の支援に関わる職員が共通理解のもとで共通理解の下で協力し、利用児の最善の利益を考慮して計画作成をおこなっている。	・今後も、職員の意見や気づきを取り入れながら、より効果的な支援計画にしていける。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		・個別療育を中心とした計画を作成し、支援をおこなっている。必要に応じて親子イベント等で小集団活動の機会も設けている。 ・計画は職員間で共有されており、計画に沿った支援をおこなっている。	・今後も、計画内容の理解や共有をより深め、支援に活かしていける。 ・個別療育を基本としながら小集団活動の機会についても適切に検討していき。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	3	・利用児の様子を標準化された評価ツールと日々の観察の両方で確認し、個々に合った支援を考える材料として考える材料として活用している。	・今後もアセスメントで得た情報を日々の支援や計画にしっかりと活かせるようにしていける。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・支援後に振り返りをおこない、気づきを共有して次回以降の支援に活かしている。	・今後も、振り返りや共有をしっかりとおこない、より良い支援をおこなえるよう努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・日々の支援内容をきちんと記録し、利用児への支援が適切におこなわれているか確認しながら次の支援に活かせるようにしている。 ・パート職員にも記録してもらい、共有している。	・今後も記録の活用内容や内容を工夫し、より良い支援を提供できるよう努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・定期的にモニタリングをおこない、支援計画の見直しをおこなっている。	・モニタリングの情報を活かし、計画をより効果的に見直ししていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・会議前に職員間で情報や意見の共有をしたうえで、会議には管理者が中心に参加している。	・今後も、会議での意見交換や情報共有の方法を工夫し、支援に活かしていける。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	・関係機関との連携が十分でない部分もあるが、必要な情報や意見をできるだけ共有し、利用児への支援につなげられるよう取り組んでいる。	・今後も、関係機関との情報共有や協力体制の方法を工夫し、利用児に合った支援体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・併行利用や就園・就学への意向を見据え、インクルージョンの観点から支援をおこなっている。 ・必要に応じて、保育所や認定こども園、幼稚園等と連絡を取り、支援内容や利用児の様子について情報共有をおこなっている。	・今後も、関係機関との連携をよりよいにおこない、相互理解を深めながら円滑な移行支援に繋げていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・必要に応じて情報共有をおこない、利用児の状況や発達特性について相互理解を深めるよう努めている。	・今後も、情報共有の方法やタイミングを工夫し、より良い支援を提供できるよう取り組んでいく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		・地域の児童発達支援センターとの連携については、必要に応じて相談や情報共有をおこない、利用児の支援に活かせるようにしている。	・スーパーバイズや研修を受ける機会が限られているため、今後は連携の機会を確保し、支援に活かせるよう取り組んでいく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	・地域に開放したイベントや、地域行事への参加を通して、地域のこども達と関わる機会を設けている。	・交流の機会が限られている面もあるため、今後は地域とのつながりを広げていけるよう工夫していき。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	・日頃から送迎時のやり取りやLINEや電話での連絡、面談を通して、利用児の様子を共有している。 ・利用児の発達状況や課題についても、継続的に情報共有をおこない、共通理解を図っている。	・面談等の機会も活用し、より丁寧な情報共有と理解の深化につなげていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	・家族からの相談に応じて、日常の関わり方や声かけについて助言を行うなど、家庭での対応力向上につながる関わりを心掛けている。	・ペアレントトレーニング等の体系的な支援や研修の機会は十分でないため、今後は職員の学びを深め、家族支援プログラムの実施を検討していき。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時や必要に応じて、運営規定、支援プログラム、利用者負担等の説明をおこない、保護者が内容を理解したうえで安心して利用できるよう努めている。	・必要に応じて、説明内容をより分かりやすく伝える工夫を継続していき。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・サービス計画を作成する際には、利用児や保護者との面談等を通して意向を確認し、利用児の最善の利益を最優先に考えながら支援内容に反映するよう努めている。	・今後も利用児一人ひとりに合った関わりができるよう、継続的な確認を心掛けていく。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・サービス計画をもとに、支援の目的や内容について保護者に説明し、理解を得たうえで同意をいただいている。	・伝え方や説明の進め方について、よりわかりやすく伝えられるよう、今後も見直していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・保護者とのコミュニケーションを大切に、子育てに関する悩みや相談があった際には、面談や日常のやり取りを通して必要な助言や支援をおこなっている。	・相談内容によっては、より専門的な視点や関係機関との連携も必要な場合もあるため、対応の幅を広げている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・定期的に保護者会を開催し、保護者同士が情報交換や交流をおこなえる機会を設けている。また年に1回程度、きょうだい会を実施し、きょうだい同士が交流できる場づくりにも取り組んでいる。	・参加しやすい開催方法や内容について、今後も保護者のニーズを踏まえながら工夫を続けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・苦情対応の体制を整備し、契約時等に保護者へ説明をおこなっている。苦情や意見があった場合には、内容を確認したうえで、迅速かつ適切に対応するよう努めている。	・苦情や意見をより安心して伝えてもらえるよう、相談しやすい雰囲気づくりや周知方法について引き続き工夫していく必要がある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・定期的なお便りの発行に加え、法人ブログやSNS(Instagram)を利用し、活動の様子や行事予定、連絡体制等について、利用児や保護者に向けて情報発信をおこなっている。	・情報発信の内容や頻度について、今後も工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	・契約書や個人ファイル等の個人情報については、鍵のかかる場所で保管するなど、適切な管理に努めている。	・日常業務における個人情報や配布物の取り扱いについて、職員間で共通認識を持ち、確認を徹底するなど、より慎重な対応を心掛けていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・利用児の特性や発達段階に応じて、視覚的な支援やわかりやすい言葉を用いるなど、意思の疎通や情報伝達に配慮している。また、保護者に対しても状況に応じた伝え方を心掛けている。	・一人ひとりに合った支援をおこなえるよう、伝え方や支援方法について職員間で共有し、引き続き工夫を重ねていく必要がある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		・地域の行事に参加するほか、地域の方が参加できるイベントや外部のこどもたちが参加できるイベントを開催するなど、地域に開かれた事業運営に取り組んでいる。	・今後も地域とのつながりを大切にしながら、より多くの方に事業所の活動を知ってもらえるよう、取り組み内容や周知方法について工夫を続けていく必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	・事故防止や緊急時、防犯、感染症対策等に関する各種マニュアルを策定し、職員間で共有している。 ・地震、火災、不審者対応等を想定した避難訓練を定期的実施している。	・保護者や家族への周知については十分とは言えないため、マニュアルの内容や対応方法について、わかりやすく伝える工夫が必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害の発生を想定した避難訓練、研修をおこなっている。	・業務継続計画(BCP)の内容について、職員一人ひとりがより具体的に理解し、非常時に円滑に行動できるよう、研修や訓練の内容を工夫していくことが必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・契約時に、服薬の有無や健康面について必要な聞き取りをおこない、支援に支障がないように配慮している。	・健康面に関する情報の把握について、必要に応じて確認項目や方法を整理していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・食物アレルギーについては、主に保護者からの聞き取りにより情報を把握し、おやつや行事等で食品を提供する際には誤食がおこらないよう配慮している。	・医師の指示書が必要な場合に備え、提出依頼や対応方法について整理していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・安全計画に基づき、研修や訓練をおこないながら安全管理に配慮した支援をおこなっている。	・安全管理について、職員間での共通理解をさらに深めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・契約時及び年度更新時(4月)に、緊急連絡先やかかりつけ医等の情報を確認し、利用児の安全確保に必要な情報を共有している。	・安全確保に関する取り組みについて、保護者への周知方法を引き続き工夫していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハット事例について職員間で共有し、事業所内で再発防止に向けた対応や支援方法の見直しをおこなっている。	・共有方法や記録の活用について、より継続的におこなえるよう工夫していく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・虐待防止のため、基幹相談支援センターの職員を講師として招き、年1回、全職員を対象とした研修を実施し、未然防止や早期発見、適切な対応について理解を深めている。	・研修内容の振り返りや事業所内での共有をおこない、日々の支援に活かせるよう継続的な意識づけをおこなっている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・身体拘束が必要な場合には組織的に判断し、保護者へ事前説明をおこなったうえで、身体拘束同意書を作成する体制を整えている。	・今後も身体拘束は最小限とし、必要時には適切な説明と記録をおこなう。